

専任教員教育研究業績

平成 29年 5月 19日

氏名	ふりがな	所属	職 位	性別
國盛 麻衣佳	くにもり まいか	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・ 講師 ・助教	男・ 女

小田原短期大学における担当科目名

造形表現Ⅰ、造形表現Ⅱ

学 歴		
和暦(西暦)年 月	事 項	学位
平成16(西暦2004)年4月	女子美術大学芸術学部絵画学科洋画専攻コース入学	
平成20(西暦2008)年3月	女子美術大学芸術学部絵画学科洋画専攻コース卒業	学士
平成20(西暦2008)年4月	東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻入学	
平成22(西暦2010)年3月	東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻修了	修士
平成22(西暦2010)年4月	九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻博士課程 環境・遺産デザインコース 入学	
平成29(西暦2017)年3月	九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻博士課程 環境・遺産デザインコース 学位取得	博士 (芸術工 学)

教育歴・職歴

名 称	期 間	教育内容又は業務内容
福岡女学院大学人文学部 メディア・コミュニケーション 学科非常勤講師	平成26(西暦2014)年4月～ 現在に至る	学部生対象「視覚コミュニケーション論」「デジ タル表示論」講義
田川市石炭・歴史博物館「ま ち歩きガイド養成講座」アドバ イザー	平成26(西暦2014)年9月～ 平成27(2015)年3月	市民によるまち歩きガイドの育成・まち歩きマッ プ作成のアドバイザー

所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
文化政策学会	平成22(西暦2010)年4月～ (現在に至る)	会員
文化経済学会	平成22(西暦2010)年4月～ (現在に至る)	会員
九州産業技術史 研究会	平成26(西暦2014)年4月～ (現在に至る)	平成26(西暦2014)年4月～平成27(西暦2013) 年3月事務局
文化資源学会	平成27(西暦2015)年4月～ (現在に至る)	会員
九州大学芸術文化環境 学会	平成26(西暦2014)年4月～ (現在に至る)	会員
アジア美術家連盟	平成27(西暦2016)年4月～ (現在に至る)	会員

社 会 活 動 等

名 称	活動期間	活 動 内 容
個展「The day -you are all I need-」	平成19(西暦2007)年12月	特定の人物を対象とした展覧会であり、記憶を共 有するためにアイコン化された3点の油彩画を 展示。鑑賞を通して関係を再構築する。儀式化さ れた展覧会の後、展覧会は公開され、終了した形 を観客が鑑賞する。2008年5月号美術手帖掲載。

川俣正「通路」展 Coalmine Lab.	平成 20（西暦 2008）年 2～4 月	東京都現代美術館川俣正氏[通路]展に展示参加。炭鉱をアート・デザインの観点から再検証する団体「Coalmine Lab.」に途中から所属。会期中、随時産炭地をフィールドに、調査、ワークショップ開催。アーカイヴ、オープンミーティング、資料展示、音源作成などを行った。Coalmine Lab.は活動継続中。主催：東京都現代美術館
万田坑市民祭り「COAL PAINT Workshop -おおむたの石炭灰えのぐで万田坑を描こう！-	平成 20（西暦 2008）年 4 月	2008 年で国指定重要文化財の旧三井三池炭鉱万田坑第二堅坑は築 100 年を迎えた。NPO 法人大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブが行う「万田坑市民まつり」でワークショップを実施。COAL PAINT を用いて万田坑敷地内をスケッチし、郷土の歴史を身近に感じるきっかけになることを目的とした。参加者の作品は万田炭坑記念館で 2 週間展示した。主催：NPO 法人大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ
コールマイン三笠アートプロデュース養成講座「Coalmine Lab.」	平成 20（西暦 2008）年 7 月	旧産炭地である北海道三笠市のモダンアートミュージアムにて、美術家 川俣正氏による全道の文化行政担当者、文化活動の制作担当者、道内芸術系大学及び専門学校生を対象としたアートプロデューサーとなる人材を育成する講座を開講した。Coalmine Lab.も企画展示に参加。主催：北海道文化財団
ゼロダテアートプロジェクト「159 Coalmine Lab.」	平成 20（西暦 2008）年 8 月～9 月	秋田県大館市のアートプロジェクト「ゼロダテ」にてアーティストインレジデンス参加。空き店舗を展覧会場にし、159 Coalmine Lab.として公開。会場壁面には県の鉱山分布図を石炭灰でペイント、現地リサーチの結果、地元の人による鉱山にまつわる資料を展示。9 月 6、7 日は同会場で「フライアッシュペイントで大好きな人の似顔絵を描こう！」ワークショップを開催。主催：アーティストイニシアティブ コマンド N
Coalmine Lab. 「炭坑+アート展」	平成 20（西暦 2008）年 11 月	山口県宇部市新天町商店街の空き店舗をサテライトラボ化し一ヶ月開所。メンバーは常時ラボに駐在し、調査研究、デジタル映像公開、資料展示、制作、ワークショップ、物産展出店、トークイベント等を開催。主催：宇部市教育委員会
英国都市計画ワークショップ「City Scapers」 招聘	平成 21（西暦 2009）年 3 月～4 月	英国ウェールズ州、特にカーディフは 18 世紀に石炭産業や製鉄業で栄えたが、地域再生が急務とされる。2020 年に向けたカーディフの都市計画を、7 カ国の建築・デザイン・アート専攻の大学、院生が選出され参加し、提案した。 主催：英国交際交流機関 British Council 英国カーディフ/カーディフ大学・グラモーガン大学

COAL PAINT Workshop 「石炭・石炭灰のぐ を体験しよう！」	平成21（西暦2009）年9月	国内外各旧産炭地で収集した石炭・石炭灰から作成した絵の具7種類を使ったアートワークショップ。会場では、各地で収集した資料や写真・レポート・映像を展示、放映。 主催：大牟田市石炭産業科学館
福岡県大牟田市文化事業「COAL PAINT Workshop「おおむたの石炭のぐで炭車を塗ろう！」	平成21（西暦2009）年11月	近代化遺産の一つである炭車を、大牟田の石炭と石炭灰で作ったCOAL PAINTを使って参加者が塗り替え、炭車をインスタレーションとして石炭産業科学館の屋外展示物として常設。大牟田市主催の文化事業として実施した。塗装は、ニッカー絵の具株式会社の協力を得て独自に開発した。
NPO 法人大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ正会員	平成22（西暦2010）年4月～ （現在に至る）	福岡県大牟田市・熊本県荒尾市一体の旧三井三池炭鉱関連資産を中心とした地域の遺産保存活用運動とまちづくり
北海道岩見沢市 百餅まつり岩見沢アートプロジェクトZaworldII 「COAL PAINT Workshop」	平成22（西暦2010）年9月	北海道産の石炭・石炭灰・赤ズリを用いたCOAL CHALKを日本理化学工業の協力を得て作成し、それを用いたアートワークショップを開催。 主催：岩見沢アートホリデイ実行委員会
個展「COALITION-石炭を物語るアート-」	平成22（西暦2010）年10月～11月	2010年9月中旬より北海道岩見沢市に約1ヶ月間現地滞在し、NPO法人炭鉱の記憶推進事業団のマネジメントセンターにて個展。展覧会を触媒に九州と空知地方の旧産炭地間における交流、歴史文化の比較評価、ネットワーク構築を目標とした。公開作品制作、展示、ワークショップ、トークイベントを企画。同時期に開催された岩見沢アートプロジェクトZaworldII、岩見沢百餅祭り、空知・小樽・室蘭地区連携の「北の近代三都物語」展と関連する形で開催。 主催：NPO法人炭鉱の記憶推進事業団
人力車アートキャラバン「嘉穂劇場60周年記念式典」	平成23（西暦2011）年2月	NPO法人iArtRevoと嘉穂劇場の連携によって、嘉穂劇場60周年記念式典が行われた。田川、飯塚、直方の3地域を横断し各商店街空き店舗や屋台などでのアートプロジェクトに参加。嘉穂劇場では伊藤英子夫人画を展示。式典、展示、アートイベントが開催された。 主催：NPO法人iArtRevo
山本作兵衛展オープニングイベント「COAL PAINT Workshop「なりきり作兵衛さん！」	平成23（西暦2011）年3月	山本作兵衛原画展開催のオープニングワークショップを実施。参加者は炭坑記録画でユネスコ世界記憶遺産となった山本作兵衛の原画を鑑賞、自らの生活の様子をCOAL PAINTを使い彼の画風にならって絵と言葉で描く。石炭や炭鉱の歴史、山本作兵衛についてのレクチャーを併せて実施した。主催：織田廣喜美術館
個展「be with underground」	平成23（西暦2011）年8月～9月	女子美術大学卒業・修了生から選出される新人作家企画展。国内の旧産炭地各所から収集した炭鉱に関連する文化、素材を用いて制作。会場では炭

		鉱住宅の部材を用いた絵画、インスタレーションやCOAL PAINTを用いたワークショップ、トークディスカッションを開催。主催：女子美術大学 場所：銀座ギャラリー女子美
黄金町バザール「COAL PAINT Project」	平成 23（西暦 2011）年 11 月	横浜市中区黄金町のアートプロジェクト「黄金町バザール」にユネスコ世界記憶遺産登録となった山本作兵衛の「炭坑記録画」原画展示に併せて展示参加。NPO 法人 iArt Revo 企画。
九州大学社会連携事業「熊本県菊池市における菊池文化資源総合調査」調査スタッフ	平成 23（西暦 2011）年 4 月～ 平成 25（西暦 2013）年 3 月	熊本県菊池市における菊池固有の文化資源の調査、まちづくり活動への介在。
個展「miner's life」	平成 24（2012）年 2 月	銀座コバヤシ画廊にて個展。70 年前の炭鉱住宅部材に石炭・石炭灰で描いた作品等を展示。トークディスカッションゲストは九州大学大学院教授藤原恵洋氏。炭鉱をテーマにしたアートプロジェクトの変遷を再考察する機会とした。 主催：女子美術大学
福岡県共助社会づくり事業「おおむたの色クレヨン」	平成 24（2012）年 4 月～ 平成 25（2013）年 3 月	市民参加型による福岡県大牟田市の近代化遺産を象徴したクレヨンの製品開発。三池炭鉱掘り出し隊、福岡県工業センター、東洋美術学校デザイン研究会 ACTY、日本理化学工業によって作成。
石炭館で炭鉱のミュージアムスケッチをしよう！	平成 25（2013）年 8 月	2011 年～2013 年にかけて福岡県の助成を受け、市民参加型で大牟田の炭鉱遺産の色に基づいた画材「大牟田のいろクレヨン」を作成。同画材を使ったワークショップ。参加者と共に石炭産業科学館の展示物を見学し解説を受けたあと、ミュージアム内でそれぞれが興味関心を持ったものを描き、発表会形式で報告した。 主催：大牟田市石炭産業科学館
国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ「金曜会」の絵画保存活動参画	平成 28（西暦 2016）年 2 月～ （現在に至る）	一般社団法人ヒューマンライツふくおかによるハンセン病療養施設 国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ「金曜会」の絵画保存活動への参画

担当教科目に関する資格・免許等

名 称	取得年月	取 得 機 関
教員免許 （中一種・高一種美術）	平成 20（西暦 2008）年 3 月	神奈川県相模原市

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要
（学術論文） 「わが国の産炭地における美術活動の展開と意義-目黒区美術館「文	共著	平成 28（2016）年	『九州大学芸術工学紀要』、九州大学芸術工学府出版、第 25 号、pp. 23-40.	産炭地における美術活動の意義を、美術的評価に留まらない社会的評価である文化資源という観点から考察した。産炭地という近代化の過程の中で、厳しい社会的背景によって労働者らが生み出さざるを得なかった表現行為を中心に、産業と美

化’資源としての<炭鉱>展」を契機として-				術表現の関係性を明らかにした。筑豊、北海道、三池、常磐という4つの炭田を取り上げ、各々の産炭地で見られた美術活動を具体的な作家及び作品を元に、その地域固有性や相違を明らかにした。
(その他) 「石炭顔料 COAL PAINT を用いた旧産炭地におけるアートプロジェクトの実践と評価に関する研究」	単著	平成 24 (2012) 年	『文化資源研究』、文化資源学会出版、第 11 号、pp. 45-50.	筆者が 2007 年より旧産炭地をフィールドに、地域固有資源を生かしたアートプロジェクトの実践と評価を行った。独自に開発した石炭顔料を用いた表現が、炭鉱に対する「負の遺産」いうイメージを解消するきっかけとなり、次世代への歴史の継承や、創造的な活動の誘発、あるいは地域に対する矜持や愛着の醸成に寄与することが明らかとなった。
「旧産炭地における炭鉱を文化資源としたアートプロジェクト-石炭・石炭灰顔料 COAL PAINT を用いたアートプロジェクトと先行事例の比較研究-」	単著	平成 24 (2012) 年	『九州大学芸術工学紀要 Vol. 17. 』、九州大学芸術工学府出版、第 17 号、pp. 111-134.	旧産炭地において、地域の課題を再検証し、歴史を受け継ぐアートプロジェクトが 1990 年代より全国各地で行われている。本研究では、先行事例と、筆者が 2007 年より行なっている石炭や石炭灰を原料としたアートプロジェクトを含めて評価考察することで、同じ社会的背景を持つ地域における芸術文化活動の意義を、アートプロジェクトの側面から明らかにした。
「旧産炭地の形成と再生に関わる芸術文化創造活動の意義に関する研究」	単著	平成 25 (2013) 年	『文化政策研究』、日本文化政策学会出版、第 7 号、pp. 197-206.	わが国の旧産炭地は、近代化をエネルギー産業の側面から支えてきた。しかし、1950 年代後半より、エネルギー転換政策によって石油へと移行したことで、旧産炭地は急激な衰退と瓦解を余儀なくされた。地域再生が急務とされる同フィールドにおいて、地域住民が旧産炭地に対して再び振り返り、地域アイデンティティを再建し、誇りや愛着を醸成する機会が、芸術文化活動によって行われていたことを、とりわけアートの視点から、1990 年代以降の各地の事例から明らかにした。
代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	
(学会発表) 「炭鉱を歴史的な文化資源とした芸術創造による旧産炭地再生計画」	単著	平成 23 (2011) 年 12 月	日本文化政策学会 (早稲田大学)	
「旧産炭地における炭鉱を文化資源としたアートプロジェクト-石炭・石炭灰 COAL PAINT を用いたアートプロジェクト実践による旧産炭地住民の矜持再生-」	単著	平成 24 (2012) 年 11 月	文化経済学会<日本> (熊本大学)	
「産炭地の風土と芸術文化運動の関係性に関する研究 -三井三池炭鉱を中心に-	単著	平成 25 (2013) 年 12 月	日本文化政策学会 (青山学院女子短期大学)	

「アート・アートプロジェクト・地域再生～札幌市立大学による文化庁事業＜空知旧産炭地域における「炭鉱の記憶」をキーワードにした地域再生のためのアートマネジメント人材育成事業＞のレポート～」	単著	平成26（2014）年 5月	九州芸術文化環境学会 （九州大学）
「炭鉱を見つめた美術家の制作背景に関する考察―だが「炭鉱」を記録したのか―」	単著	平成26（2014）年 7月	九州産業技術史研究会 （九州大学）
「炭鉱を見つめた美術家の制作背景に関する考察」	単著	平成26（2014）年 10月	文化資源学会 （東京大学）
「旧産炭地の芸術文化環境の形成と展開に関する研究」	単著	平成27（2015）年 11月	九州産業技術史研究会 （九州大学）
「旧産炭地には独自の芸術文化活動が根付いたのか?～旧産炭地の労務管理体制や人材流動化がもたらした創造人材による芸術文化環境形成に関する研究～」	単著	平成27（2015）年 12月	文化経済学会＜日本＞ （駒澤大学）
（ポスターセッション） 「石炭顔料 COAL PAINT を用いた旧産炭地におけるアートプロジェクトの実践と評価に関する研究」	単著	平成25（2013）年3月	日本文化政策学会 （鳥取大学）
その他（表彰等） 第36回九州青年美術公募展 河北記念賞受賞	平成24（2012）年12月	石炭・石炭灰・赤ズリ・漆喰を用いて、福岡県大牟田市に残る地域の様々なアイコンを再構成した絵画（レリーフ）「in my home town」（1550x1350x70mm）が、初代審査員長であった美術史家の河北倫明氏の退任を記念して設立された河北記念賞を受賞。	
第37回九州青年美術公募展 河北記念賞受賞	平成25（2013）年12月	石炭・石炭灰・赤ズリ・漆喰を用いて、福岡県大牟田市に残る地域の様々なアイコンを再構成した絵画（レリーフ）「都市の鼓動」（1650x1450x70mm）が審査員特別賞を受賞。	